

## BMS マイクロブレーキバーラックの使用方法（支点側での操作）

### BMS マイクロブレーキバーラック

高荷重から低荷重まで荷降ろしに最適。他での下降器では対応することの出来ないような150kg以上の荷重を下ろす場合に威力を発揮する。サイドバーとして角がついているため作業姿勢も容易。コンパクトで持ち運びが容易、アメリカの消防隊も個人装備としてハーネスに常備している方も少なくありません。ホットチェンジに必須の一品。

※耐荷重はロープの太さバーの間隔、バーへの巻数などによって代わります。

素材：高強度ステンレス製

強度：約52kN（フレーム強度）

サイズ：厚さ1.9cm×幅7cm×長さ26.7cm

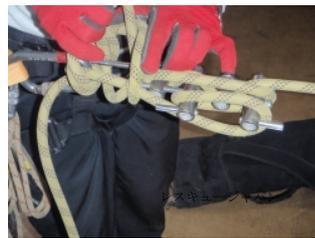
重量：448g



#### ○降下時

バーを操作する人が位置する側へ角の出す短いバーがロープで押されるように角が右に出る場合は上から掛ける。角が左に出る場合はロープを下から掛ける。

降下時は荷重によって4本バーの幅を広める、または縮める。荷重が小さければバーを広め、荷重が大きければバーを縮め摩擦抵抗を大きくする。さらに荷重が大きくなれば対象物側の角に一度まき、さらに摩擦抵抗を高める。



#### ○作業姿勢

上下の角に何度か巻きつけカラビナにロープを通し状況に応じて支点側または、角の上部で半結びを2回



○下降時から引上げシステムへの変更（荷重掛替え）

ブレーキバーに掛かる荷重をプルージックへ荷重を掛け替える作業を行なう

ブレーキバーの前にプルージックが掛かるように長さの調節をする為にプルージックを写真のようにセットする（カラビナ、プルージック2折、カラビナ、プルージック）2折りのプルージックはウェビング、スリングでも良い。

スリングを2重または4重に折り曲げてもよいが、短いスリングでの折らずしての使用であれば強度に心配がある。セットが出来たならプルージックを対象物側に移動させ、ブレーキバーの作業姿勢を解き、ゆっくりプルージックへの荷重以降を行なう。プルージックへの荷重が移行すればブレーキバーを外すことが出来る。



○下降時から引上げシステムへの変更（滑車を付ける）

ブレーキバーを外し支点側にカラビナ、プーリーを取り付け、対象物側にカラビナ、プーリー、プルージックを取り付ける（3倍力の場合）。

※ カラビナ、プーリーの位置は2折したプルージックの対象物側に付ける



○セット方法（名称ホットチェンジシステム）

これまでの説明では、降下から荷重の切替え、滑車取り付けと一つ一つの動作に時間が必要になってしまう。予め時間に余裕があるのであれば上の写真のようにブレーキバー、滑車、プルージックをセットしておく、ただし、進入者を進入させる際にはプルージックを保持しておく必要がある。

進入隊員が要救助者と接触となればプルージックに荷重を以降しブレーキバーからロープを外せばすぐに引上げシステムに変更が可能。